

## 長期キャンプにおける参加者の疲労の推移

○黒杭美郷・△山下雅彦（福山平成大学）

キーワード：小学生，長期キャンプ，自覚疲労

長期キャンプにおける参加者の健康管理面からの資料を得るため、長期キャンプ中の疲労自覚症状調査を行った。被験者はRAC主催の9泊10日のRACサマーキャンプin板取のキャンプに参加した男女合わせて16人である。調査は、キャンプ中の起床後、就寝前に産業疲労研究会選定の疲労自覚症状調査用紙に各自に記入させた。その結果、次のことが明らかになった。

1) キャンプ中の特徴として、主にI群（身体的症状）の数値が高かった。2) I群（身体的症状）、III群（神経感覚的症状）、II群（精神的要素）の順で高かったことから、全体での症状は一般作業型であるということがわかった。3) 男女に分け、症状の変化をしてみると、男子全体では精神作業型・夜勤作業型、女子全体では一般作業型という結果になった。

## 大学キャンプ実習の参加者によるキャンプ場の施設評価

○恩田 裕介（日本大学大学院研究生）

加藤 幸真（日本大学文理学部体育学科）

△澤村 博（日本大学）

キーワード：野外活動施設、キャンプ場、施設評価、キャンプ実習、大学生

現在、多くのキャンプ場は家族連れによる利用が多く、提供されているプログラムや施設は子どもを対象としたものが多くみられる。しかし、野外活動施設は単に青少年育成の場としてだけでなく、高齢者、障害者、または一般社会人などの多様な年代のニーズに応えられ、気軽に野外活動に参加・体験できるような環境が整備されていなければならない。その準備として、キャンプ場の施設の利便性や快適性、老朽化の程度などから現状を評価し、改善点を明らかにする必要があると考えられた。

本研究ではN大学が実施しているキャンプ実習に参加した大学生90名を対象とし、質問紙によるキャンプ場の施設評価を行った。実習の場所は山梨県北杜市の指定管理施設となっている市営キャンプ場であった。本研究の結果は施設改善のための基礎資料として北杜市へ報告することになっている。